SONY

4-679-683-**01**(1)

S-AIT テープドライブユニット

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

SAITe1300-S
SAITe1300-F

© 2003 Sony Corporation

モデル名とシリアル番号を控えておいてください

本機のモデル名とシリアル番号は、本機背面に記載されています。
モデル名とシリアル番号は、サービス・サポート窓口にご相談するときに必要ですので、下欄に控えておいてください。

モデル名_____ **シリアル番号**_____

Safety Information

本機は、規定承諾証明用にモデル番号 SDZ-S100 または SDZ-S130 が指定されています。番号は、本機に貼付されているモデル番号ラベルに定格とともに記載されています。

Warning

To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.
To avoid electrical shock, do not open the cabinet.
Refer servicing to qualified personnel only.

Caution

The mains plug on this equipment must be used to disconnect mains power.
Please ensure that the socket outlet is installed near the equipment and shall be easily accessible.

Notice

Use the power cord set approved by the appropriate testing organization for the specific countries where this unit is to be used.

Achtung

Zur Trennung vom Netz ist der Netzsecker aus der Steckdose zu ziehen, welche sich in der Nähe des Gerätes befinden muß und leicht zugänglich sein soll.

Hinweis

Die 3-adrige Geräteanschlußleitung muß Typ H05VV-F oder H05VVH2-F sein und nach DIN VDE 0625 geprüft sein. Der Stecker und die Gerätesteckdose müssen nach DIN VDE 0620 bzw DIN VDE 0625 geprüft sein. Der Leitungsquerschnitt kann 0,5mm^2 betragen wenn die Anschlußleitung eine Länge von 2m nicht überschreitet. Anderenfalls muß der Leitungsquerschnitt mindestens 0,75mm^2 betragen.

Hinweis

Der höchste Schalldruckpegel beträgt 70 dB(A) oder weniger gemäß ISO7779.

Ratings
- Voltage
  - AC 100 V - 240 V
- Current
  - 0.7 A - 0.4 A
- Frequecny
  - 50 / 60 Hz

Max. Ambient Temperature
- 35 degrees centigrade

A certified power supply cord has to be used with this equipment.
The relevant national installation and/or equipment regulations shall be considered.
A certified power supply cord not lighter than ordinary polyvinyl chloride flexible cord according to IEC 60227 (designation H05VV-F 3G 0.75 mm^2 or H05VVH2-F2 3G 0.75 mm^2) shall be used. Alternative a flexible cord be of synthetic rubber according to IEC 60245 (designation H05RR-F 3G 0.75 mm^2) shall be used.

Zum Netzanschluss dieses Gerätes ist eine geprüfte Leitung zu verwenden.
Es sind die zutreffenden nationalen Errichtungs- und/oder Gerätebestimmungen zu beachten.
Es ist eine geprüfte flexible PVC-ummantelte Leitung entsprechend IEC 60227 (H05VV-F 3G 0.75 mm^2 oder H05VVH2-F 3G 0.75 mm^2) zu verwenden. Andernfalls ist eine flexible Leitung aus synthetischem Gummi entsprechend IEC 60245 (Bauartkurzzeichen H05RR-F 3G 0.75 mm^2) zu verwenden.

Laser Notice (For Model No. SDZ-S130 only)

The equipment contains a tape drive using laser that complies with IEC 60825-1.
The equipment is classified as a CLASS 1 LASER PRODUCT.

Caution

The use of controls or adjustments or performance of procedures other than those specified herein may result in hazardous radiation exposure.

Caution

Do not look at the end of optical connecor on the back of the tape drive with naked eyes or through optical equipment while the power is supplied to this product. Otherwise, your eyes may be injured.

INFORMATION

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.
This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experience radio/TV technician for help.

The shielded interface cable recommended in this manual must be used with this equipment in order to comply with the limits for a digital device pursuant to Subpart B of Part 15 of FCC Rules.

If you have any questions about this product, please access Sony Support Center written in the warranty card.

Declaration of Conformity	
Trade Name:	SONY
Model No.:	SDZ-S100, SDZ-S130
Responsible Party:	Sony Electronics Inc.
Address:	680 Kinderkamack Road Oradell, NJ 07649-1601
Telephone No.:	201-930-6972

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Für Kunden in Deutschland

Diese Ausrüstung erfüllt die Europäischen EMC-Bestimmungen für die Verwendung in folgender/folgenden Umgebung(en):
• Wohngegenden
• Gewerbegebiete
• Leichtindustriegebiete
(Diese Ausrüstung erfüllt die Bestimmungen der Norm EN55022, Klasse B.)

For Users in Japan

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

高調波ガイドライン適合品

For Users in Korea

이 기기는 가정용으로 전자파 적합등록을 한 기기로서
주거지역에서는 물론 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

目次

第 1 章　はじめに

概要 **7**
S-AIT テクノロジーについて **7**
S-AIT テープドライブユニットの特長 **8**
使用できるカートリッジ **9**
データカートリッジ 9
クリーニングカートリッジ 9
使用できるソフトウェア **9**
各部の名称と機能 **10**
前面 10
背面 13
底面 15

第 2 章　設置する

概要 **16**
開梱する **16**
同梱品を確認する **17**
ホストコンピューターの準備をする **17**
ディップスイッチの設定をする **18**
ディップスイッチの設定を変更するには 18
SCSI ID を設定する（SAITe1300-S をお使いの場合） **20**
ループ ID を設定する（SAITe1300-F をお使いの場合） **21**
本機を設置する **23**
電源ケーブルを接続する **24**
デバイスドライバーをインストールする **24**
SCSI ケーブルを接続する（SAITe1300-S をお使いの場合） **25**
光ファイバーケーブルを接続する（SAITe1300-F をお使いの場合） **27**
アプリケーションソフトウェアを設定する **28**

第 3 章　基本的な使いかた

概要 **29**
電源を入れる / 切る **29**
電源を入れる 29
電源を切る 31
カートリッジを準備する **31**
カートリッジをセットする **31**
カートリッジを取り出す **32**

第 4 章　カートリッジについて

本機で使用できるカートリッジ **34**
データカートリッジについて **34**
各部の名称と機能 35
テープの書き込み保護 **37**
クリーニングカートリッジ **38**
カートリッジの取り扱いについて **38**
カートリッジの使用・保管・輸送環境 **39**

その他

ヘッドをクリーニングする **40**
エアーフィルターを交換する **41**
ハードウェアリセット **42**
ファームウェアアップデート **42**
使用上のご注意 **42**
安全上のご注意 42
使用上のご注意 43
故障かな？と思ったら **44**
主な仕様 **46**
性能 46
使用環境 46
電源・その他 47
オプショナルアクセサリ（別売） **47**
索引 **48**

商標について

・Sony、Advanced Intelligent Tape、Super Advanced Intelligent Tape は日本およびその他の国におけるソニー株式会社の登録商標または商標です。
・その他、本書に記載されている製品名は各社の登録商標または商標です。

第1章 はじめに

概要

S-AIT テープドライブユニットは、テープストリーマーの新規格「S-AIT（Super Advanced Intelligent Tape）」テクノロジーを使用した大容量データ記憶装置です。S-AIT テクノロジーは、AIT 規格の基本技術を継承するとともに、新たに 1/2 インチ幅のシングルリールテープカートリッジを採用することで、圧縮時で最大 1.3 テラバイト、非圧縮時で 500GB の大容量を記録できます。また、転送レートは最大 78MB/sec（圧縮率 2.6:1）です。（非圧縮時：30MB/sec）

S-AIT テクノロジーについて

ヘリカルスキャン方式

ヘリカルスキャン方式は、回転ヘッドと移動するテープの間でテープ長手方向に対して一定の角度を持ち、斜めにデータを記録します。読み書きのヘッド自体が回転し、それにテープが巻きつくような形で走行します。回転ヘッドを使用することによってテープ送り速度を低速にし、回転ドラムの回転数を上げることによって相対速度を上げるため、記録テープに負担をかけることなく固定ヘッド以上の高速転送を実現しています。

メタル蒸着テープ（Advanced Metal Evaporated Tape）

S-AIT カートリッジは、メタル蒸着テープ技術を採用しています。メタル蒸着テープには、磁性体表面にカーボンコーティング DLC（Diamond Like Carbon）が施され、テープの耐磨耗性を向上させています。

リモート MIC（R-MIC）搭載

カートリッジに内蔵されている R-MIC* 上にシステムログ（使用履歴）を保管することにより、カートリッジのローディング／排出にかかる時間や検索時間を短縮し、アクセス性を向上させます。

* MIC とは、カートリッジに内蔵されたフラッシュメモリーのことです。

高信頼性

シンプルなトランスポーターメカニズムにより、テープローディングの信頼性を大幅に向上しました。さらに、万一の場合にもリトライが可能であり、フェイルする確率が極めて小さくなります。

S-AIT テープドライブユニットの特長

S-AIT テープドライブユニットには、接続するホストコンピューターに応じて、次のモデルがあります。

- **SAITe1300-S**
  Ultra 160 Wide SCSI LVD/SE インターフェースを持つホストコンピューターで使用できます。
- **SAITe1300-F**
  2Gbps ファイバチャネルインターフェースを持つホストコンピューターで使用できます。

SAITe1300-S/SAITe1300-F 共通の特長

- データ容量
  非圧縮時： 500G バイト（S-AIT データカートリッジ SAIT1-500 使用時）
  圧縮時： 1.3 テラバイト（圧縮率 2.6:1）
- 転送レート
  非圧縮時： 30M バイト / 秒
  圧縮時： 78M バイト / 秒（圧縮率 2.6:1）
- リードアフターライト機能と 3 レベルのエラー訂正コード（ECC）の採用により、高いデータ信頼性を実現
- リードアフターライト（RAW）機能のオン / オフが選択可能
- 高速検索・巻き戻し
- 可変レコード長および固定レコード長対応
- 72M バイトの大容量バッファーメモリー
- EIA STANDARD の 19 インチラック（2U）に 2 台並べて設置できるコンパクト設計
- フロントドアとエアーフィルターによる防塵設計
- エアーフィルターの交換も簡単
- 半透明のフロントドアにより、フロントドアが閉まっているときでもカートリッジの確認が可能
- 洗練されたデザイン

SAITe1300-S の特長

- Ultra 160 Wide SCSI LVD/SE 準拠
- バースト転送レート：160M バイト / 秒（同期）
- SCSI ディスコネクション / アービトレーション対応

SAITe1300-F の特長

・2Gbps ファイバチャネルインターフェース
・バースト転送レート：200M バイト / 秒
・トポロジー：Private Loop、Public Loop、Point-to-Point、Switched Fabric
・転送：Full-Duplex
・FCP2 対応
・サービスのクラス：Class 3

使用できるカートリッジ

本機で使用できる S-AIT カートリッジは、以下のとおりです。

データカートリッジ

本機では、次のマークが記載されている S-AIT データカートリッジをお使いください。

SAIT-1 マーク

ご注意

本機で使用できるのは、S-AIT データカートリッジだけです。

クリーニングカートリッジ

S-AIT ドライブをクリーニングするときは、S-AIT クリーニングカートリッジを使用してください。

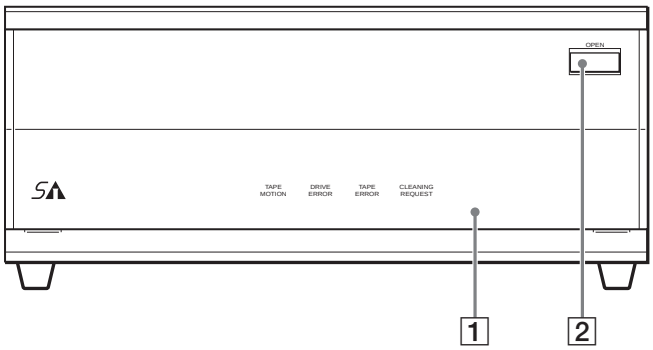
使用できるソフトウェア

本機で使用できるアプリケーションソフトウェアや対応しているオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

各部の名称と機能

前面

フロントドアを閉じたところ

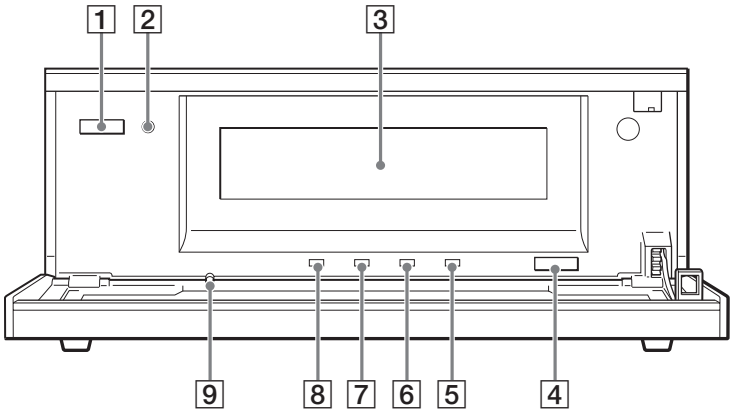


1 フロントドア
カートリッジの挿入口を保護するカバー。
カートリッジをセットしたり、交換したりするときに開けます。DOOR ボタンを押すとロックが解除され、フロントドアが開きます。

2 DOOR ボタン
フロントドアを開けるときに押します。

メモ
フロントドアが閉まっていても、アプリケーションソフトウェアにより自動的に排出されたカートリッジがぶつかることはありません。ほこりやちりを防ぐため、カートリッジをセットしたり、取り出したりするとき以外は、フロントドアを閉めておいてください。

フロントドアを開けたところ



1 電源スイッチ
電源を入れる / 切るときは、このスイッチを押します。再度電源を入れるときは、10 秒間待ってから電源を入れてください。

2 POWER インジケーター
本機の電源が入っているときに緑色に点灯します。
このインジケーターが点滅しているときは、クーリングファンにトラブルが起きている可能性があります。本機背面にあるクーリングファンが正常に動作しているか確認してください。正常に動作していない場合は、サービス・サポート窓口にご連絡ください。

3 カートリッジ挿入口
カートリッジをセットしたり、取り出したりするときに使います。

4 EJECT ボタン
カートリッジを本機から取り出すときに押します。クリーニングカートリッジの場合は、自動的に排出されます。

5 CLEANING REQUEST インジケーター
S-AIT ドライブのクリーニングが必要なときに黄色に点滅します。S-AIT ドライブのクリーニングについては、その他の「ヘッドをクリーニングする」（40 ページ）を参照してください。

6 TAPE ERROR インジケーター
メディアにエラーが起きたときにオレンジ色に点灯または点滅します。黄色に点滅している場合は、メディアが劣化しています。この場合は、新しいメディアにデータをコピーしてください。

7 DRIVE ERROR インジケーター
S-AIT ドライブにエラーが起きているときにオレンジ色または黄色に点滅します。

8 TAPE MOTION インジケーター
カートリッジがセットされているときに点灯します。インジケータの色は、カートリッジが書き込み禁止になっているかどうかによって異なります。また、本機が動作しているときは、このインジケーターが点滅します。インジケーターの色と光りかたについては、次の「インジケーターと S-AIT ドライブの状態」の一覧を参照してください。

9 ハードウェアリセット穴 / ハードウェアリセットスイッチ

非常時に本機をリセットする場合に使用します。

ただし、データの書き込み / 読み取り操作を行っているときにハードウェアリセットを行うと、データが壊れる可能性があります。メンテナンスの目的以外では使用しないでください。

インジケーターと S-AIT ドライブの状態

本機のインジケーターは、S-AIT ドライブの状態によって色や光りかたが異なります。

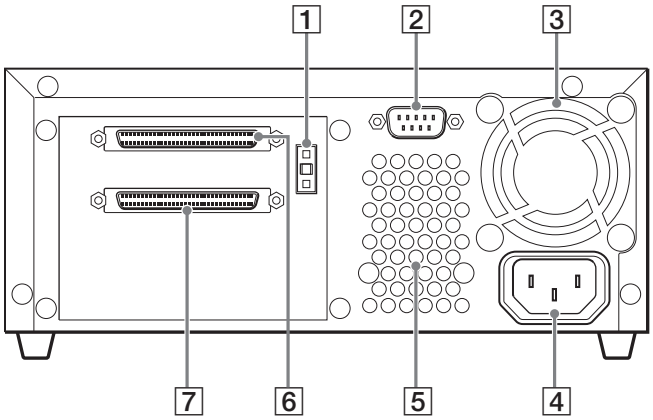
インジケーター / 光りかた	TAPE MOTION	DRIVE ERROR	TAPE ERROR	CLEANING REQUEST
緑色に点滅	本機のファームウェアのアップデート中			
緑色に点灯	カートリッジの排出が禁止されています（EJECT ボタンを押しているときのみ）			
オレンジ色に点滅	カートリッジにアクセス中（書き込み中）	ドライブエラー	メディアエラー	クリーニングエラー
オレンジ色に点灯	—	—	メディアエラー	—
黄色に点滅	カートリッジにアクセス中（検索中）	ドライブエラー	メディアに問題があります	クリーニングが必要です
黄色に点灯	カートリッジがセットされています（書き込み禁止になっています）	—	—	クリーニング中です
緑色に点滅	カートリッジにアクセス中（読み込み中）	—	—	—
緑色に点灯	カートリッジがセットされています（書き込み可能）	—	—	—
消灯	カートリッジがセットされていません	ドライブは正常です	メディアは正常です	クリーニングの必要はありません

メモ

本機の電源を入れたり、リセットしたときは、すべてのインジケーターが約 0.5 秒間緑色に点灯します。その後約 3 秒間、黄色の点滅が左から右に繰り返されます。このとき、本機では自己診断が行われています。

背面

SAITe1300-S（SCSI インターフェースモデル）の場合



1 SCSI ID スイッチ
本機の SCSI ID を設定するときに使用します。工場出荷時では、本機の SCSI ID は「0」に設定されています。詳しくは、第 2 章の「SCSI ID を設定する（SAITe1300-S をお使いの場合）」（20 ページ）を参照してください。

2 RS-232C コネクター
メンテナンスのときにのみ使用します。通常は使用しないでください。

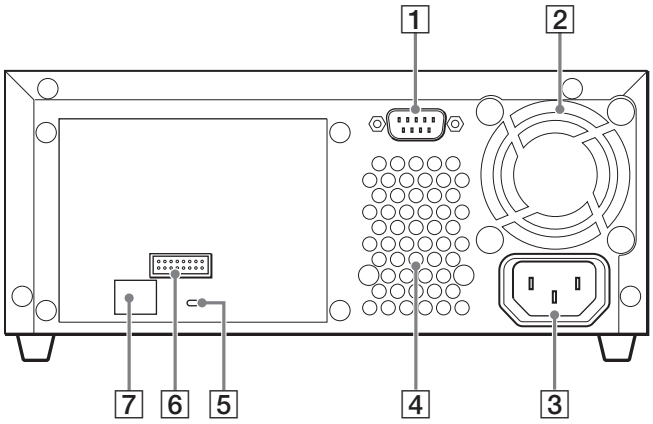
3 クーリングファン、通風孔
通気孔をふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

4 電源コネクター
付属の電源ケーブルを接続します。

5 通風孔
通気孔をふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

6 SCSI コネクター 1、7 SCSI コネクター 2
SCSI ケーブルを接続します。接続については、第 2 章の「SCSI ケーブルを接続する （SAITe1300-S をお使いの場合）」（25 ページ）を参照してください。

SAITe1300-F（ファイバチャネルインターフェースモデル）の場合



1 RS-232C コネクター
メンテナンスのときにのみ使用します。通常は使用しないでください。

2 クーリングファン、通風孔
通気孔をふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

3 電源コネクター
付属の電源ケーブルを接続します。

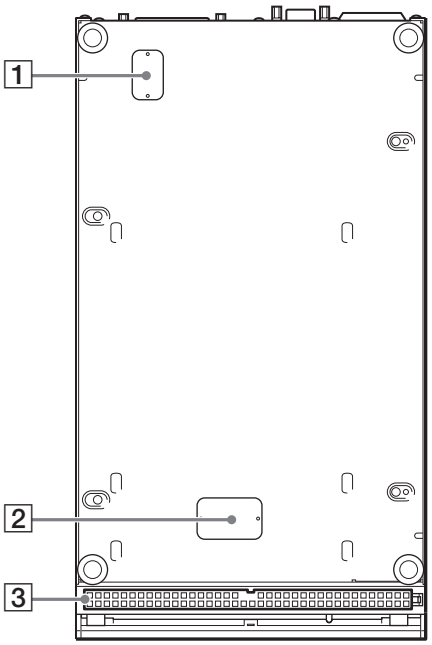
4 通風孔
通気孔をふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

5 FC ステータスインジケーター
ファイバチャネルの接続が正常な場合に消灯し、ホストとの通信中に緑色に点灯します。オレンジ色に点灯している場合は、接続エラーが発生しています。再度ケーブルの接続を確認し、必要に応じてケーブルを交換してください。

6 ループ ID ジャンパー
ファイバチャネル・トポロジーがアービトレイテッドループ（FC-AL) のときに設定します。詳しくは、第 2 章の「ループ ID を設定する（SAITe1300-F をお使いの場合)」（21 ページ）を参照してください。

7 ファイバチャネルコネクター
ファイバチャネル用の光ファイバーケーブルを接続します。接続については、第 2 章の「光ファイバーケーブルを接続する （SAITe1300-F をお使いの場合)」（27 ページ）を参照してください。

底面



1 メンテナンス用カバー
メンテナンス用ですので、このカバーを開けないでください。

2 設定用ディップスイッチ / ディップスイッチカバー
データ圧縮の設定を変更するときに使用します。ネジを外すと、ディップスイッチカバーが取り外せます。詳しくは、第 2 章の「ディップスイッチの設定をする」（18 ページ）を参照してください。

3 エアーフィルターユニット
エアーフィルターユニットをふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
1 か月に 1 回エアーフィルターのゴミやホコリを掃除機で吸って掃除してください。また、年に 1 回エアーフィルターを交換してください。交換方法は、その他の「エアーフィルターを交換する」（41 ページ）を参照してください。

第2章 設置する

概要

本章では、本機を設置場所に設置し、ホストコンピューターに接続するまでの一般的な手順と初期設定について説明します。ご使用の環境によっては、手順や設定が異なる場合があります。

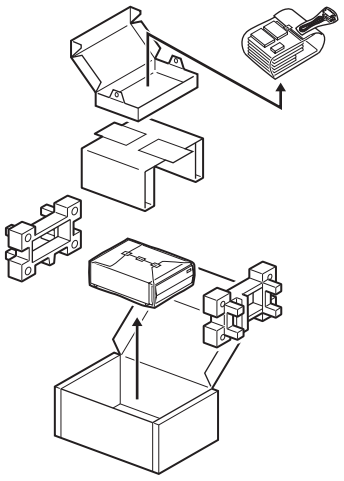
開梱する

メモ

箱と梱包材は、本機を移動したり輸送したりするときに必要です。捨てないで必ず保管してください。

1 下記に記載されている手順に従って、本機を箱から取り出す。

ビニールやテープなどの梱包材も取り除いてください。



2 輸送中の破損などがないか確認する。

万一破損などがあった場合は、本機を使用せずに、ただちにお買い上げ店にご連絡ください。

同梱品を確認する

箱を開けたら、以下のものがそろっているかお確かめください。付属品の中に欠けているものがあるときは、お買い上げ店にご連絡ください。

・S-AIT テープドライブユニット（1）
・S-AIT データカートリッジ（SAIT1-500)（1）
・S-AIT クリーニングカートリッジ（SAIT1-CL)（1）
・エアーフィルターユニット（1）
・クイックスタートガイド（1）
・CD-ROM（取扱説明書、デバイスドライバー）（1）
・SCSI ターミネーター（1）（SAITe1300-S のみ）

メモ

・上記以外に、説明書、書類、ケーブルなどが同梱されている場合があります。
・箱に貼られている同梱品リストに、すべての同梱品が記載されています。

ホストコンピューターの準備をする

設置を行う前に、ホストコンピューターの準備をします。

1 本機に接続するホストコンピューターに、SCSI ホストバスアダプターカードまたはファイバチャネルホストバスアダプターカード（FC HBA）が取り付けられているか確認する。

2 本機に対応しているアプリケーションソフトウェアを、ホストコンピューターにインストールする。

本機で使用できるアプリケーションソフトウェアやオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

ディップスイッチの設定をする

本機底面の設定用ディップスイッチで、以下の設定ができます。
・ データ圧縮設定（DC Control-1）
本機が持つデータ圧縮機能を有効にするか無効にするかを設定します。
・ データ圧縮設定（DC Control-2）
ホストコンピューターからデータ圧縮の制御を許可するかどうかを設定します。

工場出荷時では、次のように設定されています。
・ DC Control-1：オン
本機が持つデータ圧縮機能は有効に設定されています。
・ DC Control-2：オフ
ホストコンピューターからのデータ圧縮制御は許可されています。

ディップスイッチの設定を変更するには

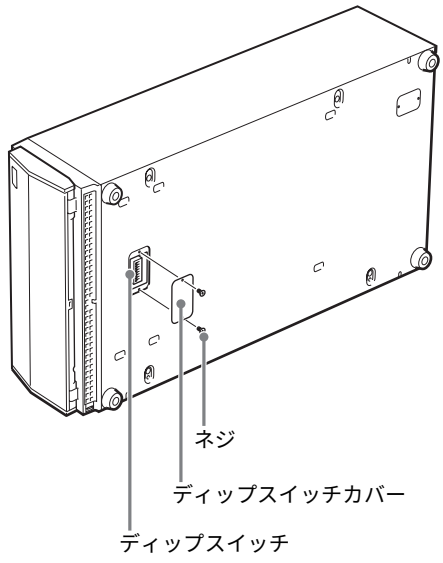
必ず以下の手順に従って、ディップスイッチを切り替えてください。

ご注意

ディップスイッチの設定を変更するときは、必ず本機の電源を切り、電源ケーブルを本機から取り外して行ってください。

1 本機の電源が切られていることを確認する。

2 プラスドライバーを使ってネジを外し、ディップスイッチカバーを取り外す。



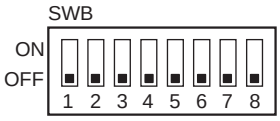
3 精密ドライバーなどの細いものを使って、ディップスイッチのオン / オフを切り替える。

DIP スイッチの詳細は、以下のとおりです。

オプションスイッチ（DIP スイッチ）

SWA 設定

SW1	Custom-1	OFF
SW2	Custom-2	OFF
SW3	Custom-3	OFF
SW4	Custom-4	OFF
SW5	未使用	OFF
SW6	未使用	OFF
SW7	DC Control-1	ON
SW8	DC Control-2	OFF



SWB 設定

SW1	未使用	OFF
SW2	未使用	OFF
SW3	未使用	OFF
SW4	未使用	OFF
SW5	未使用	OFF
SW6	未使用	OFF
SW7	未使用	OFF
SW8	未使用	OFF

データ圧縮の設定

DC Control-1	DC Control-2	説明
OFF	OFF	本機が持つデータ圧縮機能：無効 ホストコンピューターからのデータ圧縮制御：許可する
OFF	ON	本機が持つデータ圧縮機能：無効 ホストコンピューターからのデータ圧縮制御：許可しない
ON	OFF	本機が持つデータ圧縮機能：有効 ホストコンピューターからのデータ圧縮制御：許可する
ON	ON	本機が持つデータ圧縮機能：有効 ホストコンピューターからのデータ圧縮制御：許可しない

4 DIP スイッチを設定したら、ディップスイッチカバーとネジを取り付けます。

このあとは ...

SAITe1300-S（SCSI インターフェースモデル）をお使いの場合は、「SCSI ID を設定する（SAITe1300-S をお使いの場合）」（20 ページ）にお進みください。

SAITe1300-F（ファイバチャネルインターフェースモデル）をお使いの場合は、「ループ ID を設定する（SAITe1300-F をお使いの場合）」（21 ページ）にお進みください。

SCSI ID を設定する（SAITe1300-S をお使いの場合）

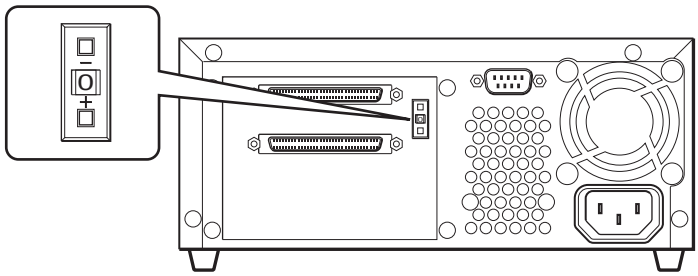
必要に応じて、本機背面の SCSI ID スイッチで SCSI ID を設定します。本機の工場出荷時の SCSI ID は「0」に設定されています。本機の SCSI ID は、0 ～ 15 の範囲で設定できます。

ご注意

- 本機の SCSI ID は 0 ～ 15 の範囲で設定できますが、優先度は、7（最高）から 0、15 から 8（最低）になります。
- ホストコンピューターに取り付けられている SCSI ホストバスアダプターカードや他の SCSI 機器と重複する SCSI ID を設定しないでください。通常、ホストコンピューターの SCSI ホストバスアダプターカードは、「7」に設定されています。
- 本設定は、必ず電源を入れる前に行ってください。

1 本機の電源が切られていることを確認する。

2 ボールペンの先などを使って、ID 番号の上下にあるボタンを押し、SISC ID を設定する。



変更した SCSI ID は、次に本機の電源を入れるか、SCSI バスをリセットしたときから有効になります。

このあとは …

「本機を設置する」（23 ページ）にお進みください。

ループ ID を設定する（SAITe1300-F をお使いの場合）

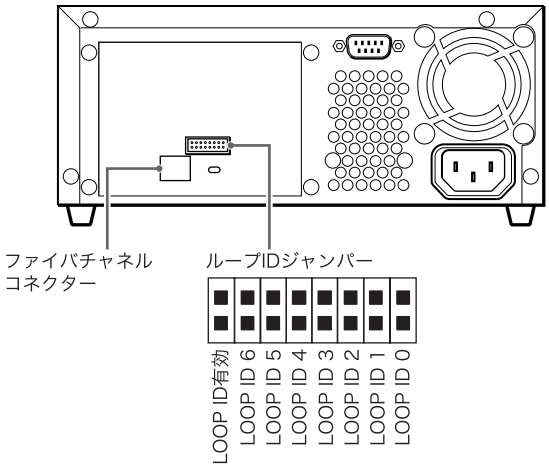
必要に応じて、本機背面のループ ID ジャンパーでループ ID を設定します。
このジャンパーは、ファイバチャネル・トポロジーがアービトレイテッドループのときに設定します。
ループ ID ジャンパーが有効に設定されているときは、LIHA（Loop Initialization Hard Assigned）によって AL_PA（Arbitrated Loop Physical Addresses）を取得します。AL_PA は、ループ ID から取得されます。AL_PA とループ ID の変換ルールについては、「AL_PA とループ ID の一覧」（22 ページ）を参照してください。
ループ ID ジャンパーが無効に設定されているときは、LIHA による AL_PA は実行されませんので、AL_PA は、LISA（Loop Initialization Soft Assigned）から取得されます。

ご注意

- 本設定は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。電源を入れた状態で行うと、本機の故障の原因となります。
- 本機の電源が入っているときは、ファイバチャネルコネクターやループ ID ジャンパーに触らないでください。本機の故障の原因となります。

ループID

LOOP ID	6 5 4 3 2 1 0
0	■■■■■■■
1	■■■■■■□
2	■■■■■□■
3	■■■■■□□
4	■■■■□■■
5	■■■■□■□
6	■■■■□□■
⋮	⋮
121	□□□□■■□
122	□□□□■□■
123	□□□□■□□
124	□□□□□■■
125	□□□□□■□
未使用	□□□□□□■
未使用	□□□□□□□



ループID有効

有効	□□
無効	■■

Note: □□ ＝閉/ジャンパー使用
■■ ＝開/ジャンパー未使用
□ ＝関係なし

AL_PA とループ ID の一覧

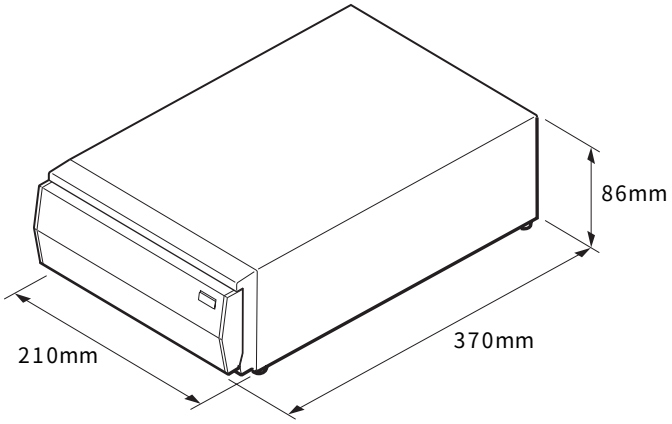
	7-bit Loop ID		8-bit AL_PA	7-bit Loop ID		8-bit AL_PA	7-bit Loop ID		8-bit AL_PA	
	(Hex)	(Decimal)	(Hex)	(Hex)	(Decimal)	(Hex)	(Hex)	(Decimal)	(Hex)	
優先度低	00	0	EF	2B	43	A3	56	86	4D	
	01	1	E8	2C	44	9F	57	87	4C	
	02	2	E4	2D	45	9E	58	88	4B	
	03	3	E2	2E	46	9D	59	89	4A	
	04	4	E1	2F	47	9B	5A	90	49	
	05	5	E0	30	48	98	5B	91	47	
	06	6	DC	31	49	97	5C	92	46	
	07	7	DA	32	50	90	5D	93	45	
	08	8	D9	33	51	8F	5E	94	43	
	09	9	D6	34	52	88	5F	95	3C	
	0A	10	D5	35	53	84	60	96	3A	
	0B	11	D4	36	54	82	61	97	39	
	0C	12	D3	37	55	81	62	98	36	
	0D	13	D2	38	56	80	63	99	35	
	0E	14	D1	39	57	7C	64	100	34	
	0F	15	CE	3A	58	7A	65	101	33	
	10	16	CD	3B	59	79	66	102	32	
	11	17	CC	3C	60	76	67	103	31	
	12	18	CB	3D	61	75	68	104	2E	
	13	19	CA	3E	62	74	69	105	2D	
	14	20	C9	3F	63	73	6A	106	2C	
	15	21	C7	40	64	72	6B	107	2B	
	16	22	C6	41	65	71	6C	108	2A	
	17	23	C5	42	66	6E	6D	109	29	
	18	24	C3	43	67	6D	6E	110	27	
	19	25	BC	44	68	6C	6F	111	26	
	1A	26	BA	45	69	6B	70	112	25	
	1B	27	B9	46	70	6A	71	113	23	
	1C	28	B6	47	71	69	72	114	1F	
	1D	29	B5	48	72	67	73	115	1E	
	1E	30	B4	49	73	66	74	116	1D	
	1F	31	B3	4A	74	65	75	117	1B	
	20	32	B2	4B	75	63	76	118	18	
	21	33	B1	4C	76	5C	77	119	17	
	22	34	AE	4D	77	5A	78	120	10	
	23	35	AD	4E	78	59	79	121	0F	
	24	36	AC	4F	79	56	7A	122	08	
	25	37	AB	50	80	55	7B	123	04	
	26	38	AA	51	81	54	7C	124	02	
	27	39	A9	52	82	53	7D	125	01	
	28	40	A7	53	83	52	—	—	—	優先度高
	29	41	A6	54	84	51	—	—	—	
	2A	42	A5	55	85	4E	—	—	—	

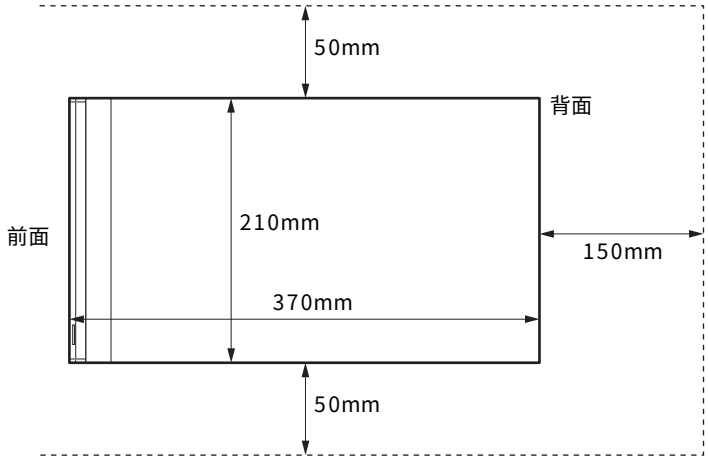
本機を設置する

本機の質量は約 7kg で、大きさは以下のとおりです。あらかじめ設置場所の強度とスペースを十分確認してから、設置してください。

メモ

コンセントに近く、水平な場所に設置してください。また、本機の後部には空気が循環するように 150mm 以上のスペースを空けてください。





重要

必ず次の条件を満たす場所に設置してください。

- 水平な場所
- 換気扇や窓、エアコンなどから離れている場所（空気の流れがない場所）
- ファクスやプリンターなどから離れている場所
  （トナーや紙紛が飛んでこない場所）

ご注意

本機を積み重ねたり、本機の上に物を載せないでください。

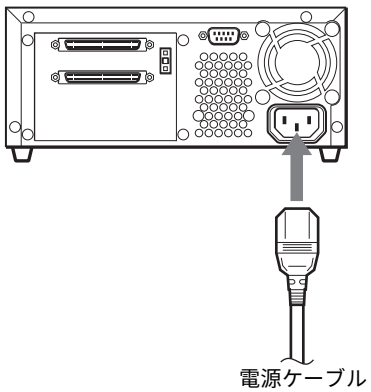
電源ケーブルを接続する

メモ

・電源ケーブルが付属されていない場合は、別途ご用意ください。同梱品リストは箱に記載されています。
・必ずアース線を接続してください。

1 本機の電源が切られていることを確認する。

2 電源ケーブルの一方を本機の電源コネクターに接続し、もう一方をコンセントに接続する。



デバイスドライバーをインストールする

本機に付属のデバイスドライバーをホストコンピューターにインストールします。インストール方法については、付属の CD-ROM に収録されている説明書を参照してください。

最新のデバイスドライバー・接続情報については、ソニーのホームページでご案内しています。下記の URL を参照してください。

http://www.sony.co.jp/STORAGE

このあとは …

SAITe1300-S（SCSI インターフェースモデル）をお使いの場合は、「SCSI ケーブルを接続する （SAITe1300-S をお使いの場合）」（25 ページ）にお進みください。

SAITe1300-F（ファイバチャネルインターフェースモデル）をお使いの場合は、「光ファイバーケーブルを接続する （SAITe1300-F をお使いの場合）」（27 ページ）にお進みください。

SCSI ケーブルを接続する（SAITe1300-S をお使いの場合）

SCSI ケーブルで、本機（SAITe1300-S）とホストコンピューターを接続します。ここでは、一般的な接続手順を説明します。接続には、市販の Ultra 160/m SCSI LVD ケーブルをお使いください。本機側は 68 ピンハーフピッチのコネクターを使用しています。

ご注意

- 本機を HVD（High Voltage Differential）SCSI バスに接続しないでください。接続すると、本機または SCSI バス上の他のデバイスが故障する恐れがあります。
- Wide SCSI ケーブルを接続するときは、本機、ホストコンピューターおよびすべての接続機器の電源を切ってください。
- 本機を Wide SCSI の終端に接続する場合は、必ずターミネーターを取り付けてください。
- SCSI コネクターに SCSI ケーブルがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- LVD（Low Voltage Differential）SCSI では、ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12m 未満になるようにしてください。LVD バスに接続されているデバイスが 1 台の場合は、SCSI ケーブルの全長が 25m 未満になるようにしてください。本機の内部ケーブルの長さは 25cm です。
- 分岐はできません。

メモ

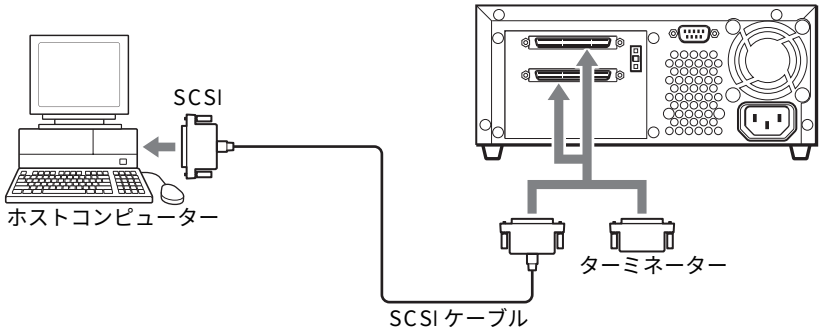
あらかじめ必要な SCSI ケーブルを用意しておいてください。

1 ホストコンピューターと本機の電源が切られていることを確認する。

2 図のようにして、SCSI ケーブルとターミネーターを接続する。

1 市販の SCSI ケーブルを使って、本機とホストコンピューターを接続します。

2 もう一方のコネクターにターミネーターを取り付けます。



複数の SCSI 機器を接続する場合

ホストコンピューターには、本機を含め 15 台の SCSI 機器を接続できます。

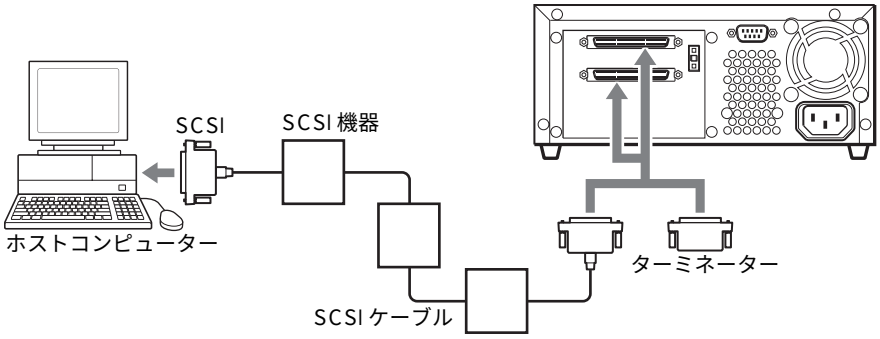
1 本機を含め SCSI バス上のすべての SCSI 機器の電源を切る。

ご注意

SCSI 機器に SCSI ケーブルを抜き差しする際は、必ずすべての SCSI 機器（本機を含む）の電源を切ってください。故障の原因となります。

2 図のようにして、SCSI ケーブルで接続し、SCSI バスの終端の機器にターミネーターを接続する。

その後ホストコマンドを発行し、オペレーションを再開させてください。



メモ

- ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12m 未満になるようにしてください。（本機の内部ケーブルの長さは 25cm です。）
- 本機を SCSI バスの終端に接続する場合は、必ず付属のターミネーターを取り付けてください。

このあとは …

「アプリケーションソフトウェアを設定する」（28 ページ）にお進みください。

光ファイバーケーブルを接続する（SAITe1300-F をお使いの場合）

本機（SAITe1300-F）のインターフェースは、ファイバチャネル標準に準じています。
・短波長レーザー
・200MB/ 秒
・Duplex LC ファイバチャネルコネクター

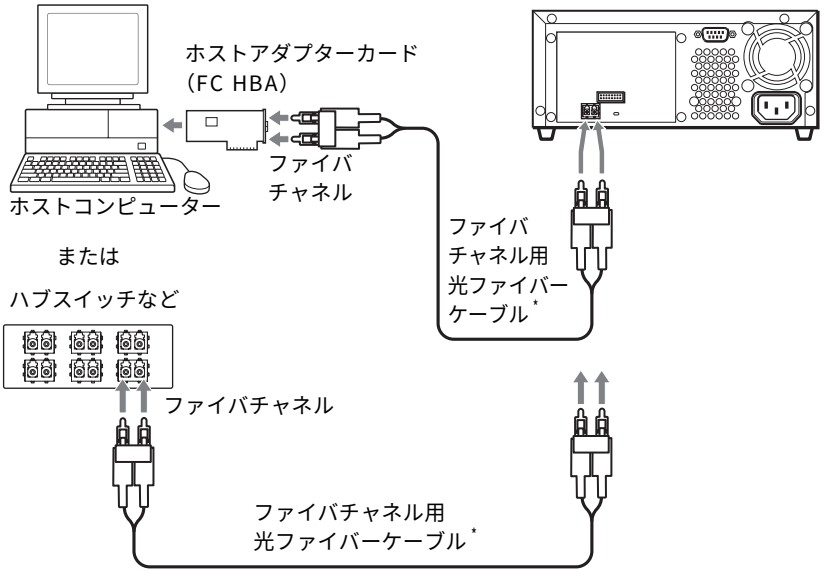
本機を接続するための機器類（ファイバチャネル HBA、ハブ、スイッチなど）は、同じタイプのものをお使いください。
本機で使用できる光ファイバーケーブルは、次のタイプです。
・Duplex LC ファイバチャネルコネクター
・50/125 マイクロメーターマルチモード光ファイバーケーブル

ご注意

・異なるタイプのインターフェースやケーブルに接続した場合は、正しく動作しません。
・光ファイバーケーブルを接続したり、外したりするときは、必ず本機の電源を切ってから行ってください。電源を入れた状態で行うと、本機の故障の原因となります。
・本機の電源が入っているときは、本機のファイバチャネルコネクターに触らないでください。本機の故障の原因となります。

1 本機の電源が切られていることを確認する。

2 市販の光ファイバーケーブルを使って、ファイバチャネル HBA またはハブ、スイッチなどに接続する。



* (50/125 µm, MMF, Duplex LC)

アプリケーションソフトウェアを設定する

ホストコンピューターでアプリケーションソフトウェアを設定して、本機を使うための設定を行います。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについては、第 3 章の「電源を入れる / 切る」（29 ページ）を参照してください。

2 本機で使用するアプリケーションソフトウェアの説明書に従って、ホストコンピューターで必要な設定を行う。

詳しくは、アプリケーションソフトウェアの説明書を参照してください。

第 3 章 基本的な使いかた

概要

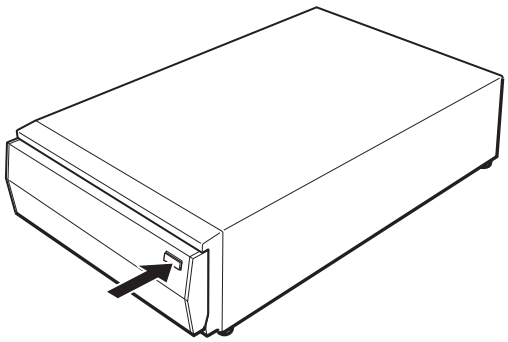
本章では、電源の入れかた / 切りかた、カートリッジの出し入れなどについて説明します。

電源を入れる / 切る

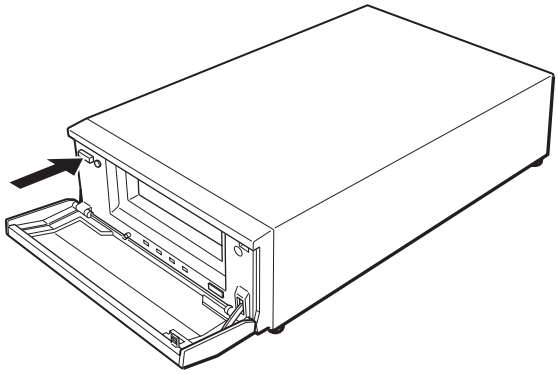
電源を入れる

1 DOOR ボタンを押す。

ロックが解除され、フロントドアが開きます。



2 電源ボタンを押す。

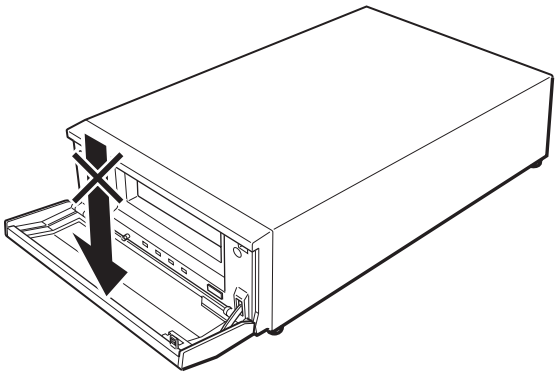


POWER インジケーターが緑色に点灯し、起動処理が始まります。
- すべてのインジケーターが約 0.5 秒間緑色に点灯します。
- その後約 3 秒間、黄色の点滅が左から右に繰り返されます。このとき、本機では自己診断が行われます。

本機が起動すると、TAPE MOTION、DRIVE ERROR、TAPE ERROR、CLEANING REQUEST インジケーターが消灯します。（カートリッジがセットされているときは、TAPE MOTION インジケーターが緑色または黄色に点灯します。）

ご注意

- 電源を入れたときに POWER インジケーターが点滅している場合は、クーリングファンに不具合がある可能性があります。本機背面のクーリングファンが正常に動作しているか確認してください。正常に動作していない場合は、お買い上げ店にご連絡ください。
- 上記のようにインジケーターが光らないときは、第 1 章の「インジケーターと S-AIT ドライブの状態」（12 ページ）を参照してください。
- フロントドアを開けているときは、フロントドアを押したりしないでください。破損する恐れがあります。



メモ

- SAITe1300-S（SCSI インターフェースモデル）をお使いの場合は、本機より先にホストコンピューターが立ち上がると、SCSI ID が正しく認識されません。必ず本機の電源を入れてから、ホストコンピューターの電源を入れてください。
- 上記のように起動しないときは、「その他」の「故障かな？と思ったら」（44 ページ）を参照してください。

電源を切る

1 DOOR ボタンを押す。

ロックが解除され、フロントドアが開きます。

2 電源ボタンを押す。

ご注意

本機が動作しているとき、または S-AIT カートリッジが入っているときは、絶対に電源を切らないでください。データが破損する原因となります。

メモ

再度電源を入れるときは、10 秒間待ってから電源を入れてください。

カートリッジを準備する

カートリッジの準備をして、本機にカートリッジをセットします。
誤消去防止用ツメを確認して、カートリッジを使用するための準備をします。
詳しくは、第 4 章の「テープの書き込み保護」（37 ページ）を参照してください。

カートリッジをセットする

次の手順に従って、カートリッジを本機にセットします。

1 DOOR ボタンを押す。

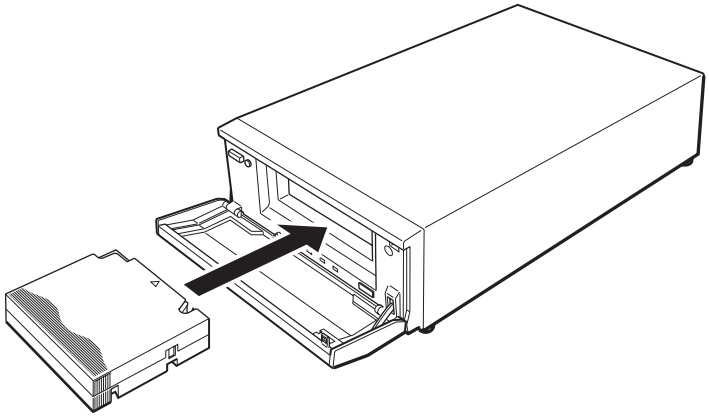
ロックが解除され、フロントドアが開きます。

2 電源ボタンを押す。

POWER インジケーターが緑色に点灯し、起動処理が始まります。

3 TAPE MOTION、DRIVE ERROR、TAPE ERROR、CLEANING REQUEST インジケーターが消灯し本機が起動したら、カートリッジ挿入口にカートリッジをセットする。

カートリッジの方向に注意してください。



4 フロントドアを閉める。

カートリッジがロードされると、TAPE MOTION インジケーターが緑色または黄色に点灯します。

5 アプリケーションソフトウェアからカートリッジの読み書きなどを制御する。

本機の状態については、第 1 章の「インジケーターと S-AIT ドライブの状態」（12 ページ）を参照してください。

ご注意

カートリッジのロードが始まったら、カートリッジを押したりしないでください。排出時にカートリッジが飛び出てしまうことがあります。

カートリッジを取り出す

アプリケーションソフトウェアで自動的に排出するように設定している場合

1 DOOR ボタンを押す。

ロックが解除され、フロントドアが開きます。

2 カートリッジを取り出し、フロントドアを閉める。

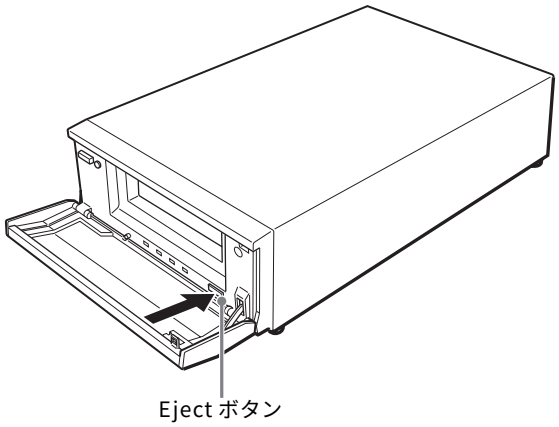
手動で取り出す場合

1 DOOR ボタンを押す。

ロックが解除され、フロントドアが開きます。

2 EJECT ボタンを押す。

カートリッジが排出されます。



3 カートリッジを取り出し、フロントドアを閉める。

ご注意

TAPE MOTION インジケーターが点滅している間は、EJECT ボタンを押さないでください。データが破損する原因となります。

第4章 カートリッジについて

本機で使用できるカートリッジ

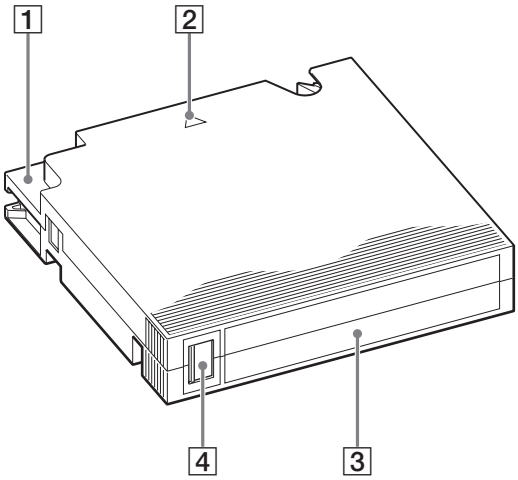
本機では、次のカートリッジのみ使用できます。
・S-AIT データカートリッジ
・S-AIT クリーニングカートリッジ

本機では、必ず上記のカートリッジを使用してください。LTO Ultrium や SDLT、DLT など、他のフォーマットのカートリッジは使用しないでください。

データカートリッジについて

S-AIT データカートリッジは、非圧縮時 500GB、圧縮時 1.3 テラバイト（圧縮率　2.6:1）を記録できる 1/2 インチ幅の AME（Advanced Metal Evaporated：蒸着）テープです。
テープの記録方法は、テープ記録の高密度化と高転送レート化に優れたヘリカルスキャン方式を採用しています。
また、データカートリッジに内蔵されているリモート MIC（容量 8KB）を使って記録内容をデータ検索できるため、検索したいファイルが存在するデータカートリッジ、あるいはデータカートリッジのどの部分に記録されているかをすばやく検索できます。

各部の名称と機能

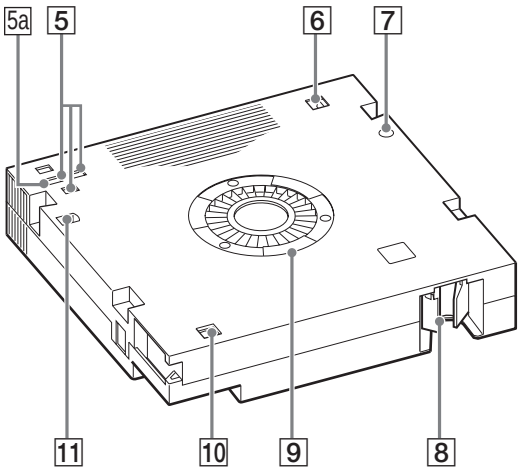


1 挿入ガイド
カートリッジが正しい向きに挿入されるようにするためのガイドです。また、本カートリッジを違う種類のドライブに挿入できないようする役割もあります。

2 挿入方向指示
△マークの方向にカートリッジを挿入します。

3 ラベル貼り付け位置
ラベルを貼る位置です。ラベルは枠内に平行に貼ってください。はみ出していると、カートリッジをロードするときに引っかかって、トラブルが発生する恐れがあります。

4 誤消去防止用ツメ
右にスライドさせると、データカートリッジの内容が保護されます。
タブの色は、SONY 製データカートリッジ SAIT1-500 はオレンジ、クリーニングカートリッジ SAIT1-CL は青です。「テープの書き込み保護」（37 ページ）を参照してください。



5 カートリッジ識別孔

S-AIT テープドライブがカートリッジの種類を識別するための孔です。
データカートリッジはすべての孔がふさがれています。クリーニングカートリッジは 5a の孔だけ開いています。

ご注意

カートリッジ識別孔を開けないでください。カートリッジの種類が正しく識別されなくなります。

6 リールロック

S-AIT テープドライブにセットされていないときに、テープがずれないようにするためのロックです。カートリッジを本機にセットすると、自動的にリールロックが解除されます。

ご注意

リールロックをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

7 カートリッジ位置決め穴

S-AIT テープドライブ内の正しい位置にカートリッジをセットするために使用されます。

ご注意

カートリッジ位置決め穴をふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

8 リーダーブロック

テープが取り付けられています。カートリッジを S-AIT テープドライブに挿入すると、カートリッジからリーダーブロックが引き出されて、ユニット内の取り外し不能のテープ巻き取りリールにロードされ、ドラムに巻き付きます。

ご注意

リーダーブロックをカートリッジから引き出さないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

9 ハブ（カートリッジのハブ）
カートリッジ内のリールの回転に使用されます。

ご注意
ハブをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

10 リールロック
S-AIT テープドライブにセットされていないときに、テープがずれないようにするためのロックです。カートリッジを本機にセットすると、自動的にリールロックが解除されます。

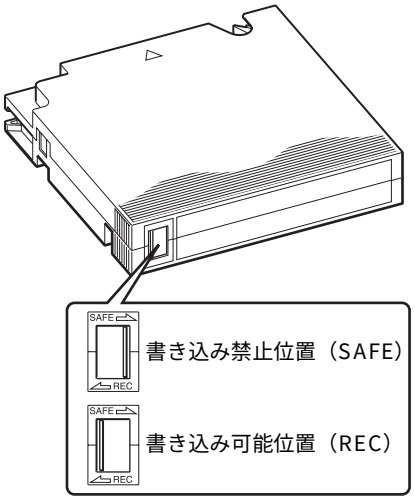
ご注意
リールロックをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

11 カートリッジ位置決め穴
S-AIT テープドライブ内の正しい位置にカートリッジをセットするために使用されます。

ご注意
カートリッジ位置決め穴をふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

テープの書き込み保護

ツメを図の方向にスライドさせることによって、テープへの書き込みを保護できます。この状態では、テープからデータを読み出すことはできますが、書き込みを行うことはできません。



クリーニングカートリッジ

本機のドライブヘッドのクリーニングには、SONY S-AIT クリーニングカートリッジをお使いください。ヘッドのクリーニングが必要になると、CLEANING REQUEST インジケーターが黄色に点滅して警告します。
クリーニング方法については、「その他」の「ヘッドをクリーニングする」（40 ページ）を参照してください。

カートリッジの取り扱いについて

カートリッジを取り扱うときや保管するときは、以下のことに注意してください。

取り扱い上のご注意

- カートリッジを使用する前に、少なくとも 24 時間は使用環境になじませてから使用してください。
- 使用する前に、カートリッジが損傷していないか、異物などが付着していないか確認してください。
- 損傷しているカートリッジは使用しないでください。本機の故障の原因となります。
- カートリッジからリーダーブロックやテープを引き出さないでください。カートリッジ内のブレーキ機構やテープを損傷させる恐れがあります。また、カートリッジの外側に出ているテープに触ると、テープの表面やへりの部分に損傷を与える恐れがあります。
- カートリッジに激しい振動を与えたり、落としたりしないでください。
- カートリッジは、工場出荷時に精密に調整されていますので、分解しないでください。
- ラベルは必ず所定の位置に貼ってください。
- カートリッジのツメは、不要なデータを誤って書き込まないためのものです。書き込みの必要のないカートリッジは、書き込みできない状態にしておいてください。「テープの書き込み保護」（37 ページ）を参照してください。
- 温度差の激しい場所や湿気の多いところでは、結露により、書き込み、読み取りができなくなることがあります。
- 書き込み、読み取りの必要がないときは、不必要にカートリッジを本機に出し入れしないでください。
- 本機の電源を切る前に、必ずカートリッジを取り出してください。
- カートリッジを廃棄する際は、各自治体の条例・規則に従ってください。詳しくは、各自治体にお問い合わせください。

保管上のご注意

・カートリッジを使用していないときは、必ず付属のケースに入れて保管してください。
・適切な環境でカートリッジを保管してください。
カートリッジのパッケージに記載されている保管温度、その他の周囲条件に従って保管してください。また、保管中に温度や湿度が変化しないようにしてください。直射日光の当たるところ、暖房機の近く、湿気の多いところには保管しないでください。自動車のダッシュボードやトレーには絶対に置かないでください。
・カートリッジは縦にして保管してください。
・強い磁場を発生する機材の近くに保管しないでください。データが消失する可能性があります。
・ほこりやちりの少ない場所に保管してください。
ほこりやちりの発生する原因を取り除いてください。保管場所近くで喫煙、飲食をしないでください。また、トナーや紙粉を排出する恐れのあるコピーやプリンターの近くにカートリッジを保管しないでください。
・カートリッジを保管するときは、誤消去防止用ツメを書き込み不可の位置にしてください。
・本機からカートリッジを取り出したときは、できるだけ早く適切な場所に保管してください。
温度や湿度の変化、ほこりやちりによる汚損、手指などに触れることによるテープの損傷をできるだけ防ぐようにしてください。
・再利用する予定のテープカートリッジは消磁しないでください。消磁すると、テープが使用できなくなる恐れがあります。

カートリッジの使用・保管・輸送環境

使用環境

カートリッジを使用する前に、少なくとも 24 時間は使用環境になじませてから使用してください。
温度 5 ～ 45 ℃
湿度 20 ～ 80%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

保管環境

温度 16 ～ 32 ℃
湿度 20 ～ 60%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

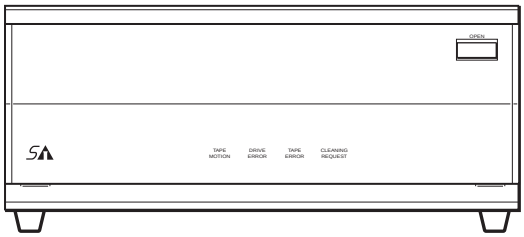
輸送環境

温度 –23 ～ 48 ℃
湿度 5 ～ 80%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

その他

ヘッドをクリーニングする

本機では、自動的にヘッドのクリーニングを行うように設計されていますが、本機を良好な状態でお使いいただくために、クリーニングカートリッジによるクリーニングが必要になると、CLEANING REQUEST インジケーターが黄色に点滅して警告します。
クリーニングカートリッジは、S-AIT クリーニングカートリッジをお使いください。



CLEANING REQUEST インジケーターが黄色に点滅したときは、次の手順でクリーニングを行ってください。

1 クリーニングカートリッジを本機にセットする。

自動的にクリーニングカートリッジがロードされ、ヘッドのクリーニングが開始します。
クリーニングを行っている間は、CLEANING REQUEST インジケーターが黄色に点灯します。

クリーニングが終了したら、自動的にクリーニングカートリッジが排出され、CLEANING REQUEST インジケーターが消灯します。

メモ

S-AIT クリーニングカートリッジは、50 回使用できます。使用回数は、カートリッジの R-MIC に記録されます。使い切ったクリーニングカートリッジをセットしたときは、クリーニングは行われず、すぐに排出されます。この場合は、新しいクリーニングカートリッジで再度操作を行ってください。

エアーフィルターを交換する

年に 1 回、本機のエアーフィルターを交換してください。追加で購入されるときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

エアーフィルター：型番　ACY-FLSE

メモ

1 か月に 1 回、エアーフィルターのゴミを掃除機で吸ってきれいにしてください。

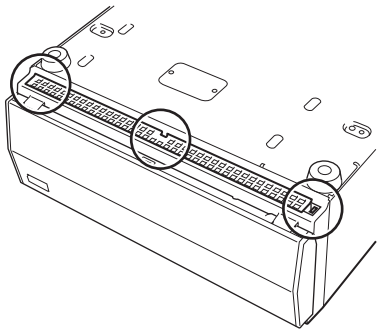
1 新しいエアーフィルターを用意する。

2 本機の電源を切る。

3 すべてのケーブル類を取り外す。

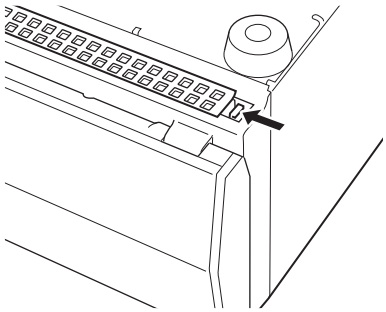
4 本機の底面を上にして置く。

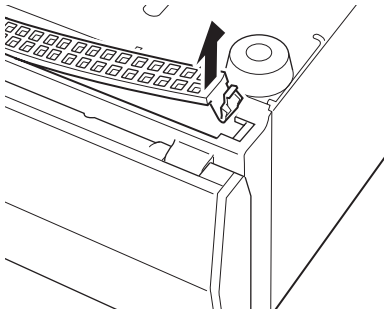
エアーフィルターには、ツメが 3 箇所あります。



5 古いエアーフィルターを取り外す。

図のようにして、エアーフィルターの端のロックを外して、取り外します。



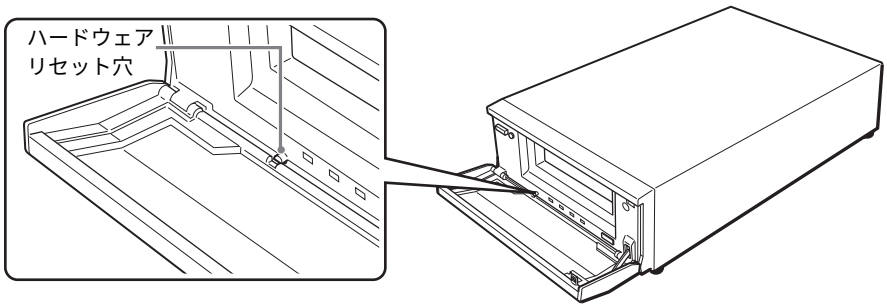


6 新しいエアーフィルターをセットする。

ツメに注意して、きちんとセットしてください。

ハードウェアリセット

非常時には、ハードウェアリセット穴にペーパークリップを伸ばしたようなものを入れて内部のスイッチを押すことにより、すぐに本機をリセットできます。ただし、書き込み / 読み取り操作を行っている場合は、データが壊れる可能性があります。メンテナンスの目的以外では、ハードウェアリセットを行わないでください。



ファームウェアアップデート

本機では、新しいファームウェアを SCSI バス経由で本機にダウンロードできます。新しいファームウェアの入手やダウンロード方法については、SONY のホームページでご案内しています。下記の URL を参照してください。

http://www.sony.co.jp/STORAGE/

使用上のご注意

安全上のご注意

電源に関するご注意

- 100-240V でご使用ください。
- コピー機やシュレッダーなどの消費電力の高い機器とタコ足配線しないでください。

電源ケーブルに関するご注意

- 電源ケーブルを傷つけたり、重いものを載せないでください。傷んだ電源ケーブルは使用しないでください。
- 電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブル部分を持って抜くと、電源ケーブルが傷つく恐れがあります。
- 本機を長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。

使用上のご注意

衝撃や振動を与えない

本機を落とすなどして、衝撃や振動を与えないでください。破損する恐れがあります。

設置について

次のような場所に本機を設置しないでください。

・湿度の高い場所
・気温の高い場所
・直射日光の当たる場所
・ほこりやちりの多い場所
・機械的な衝撃や振動の発生する場所
・急激な温度変化がある場所

設置場所の通気について

本機内部の温度上昇を防ぐために、空気が循環している環境に設置してください。また、本機の動作中はカバーを覆わないでください。本機内部の温度が上昇すると、誤動作の原因となります。

急激な温度変化がある場所には設置しないでください

本機を急激な温度変化にさらさないでください。ドライブ内部に結露が生じる場合があります。使用時に気温が急激に上昇するような場合は、いったん本機の電源を切り、1 時間以上待ってから電源を入れ直してください。急激に気温が上昇した直後に本機を使用すると、本機が故障する場合があります。

万一異常が起きたら

本機から臭いや煙が発生したときは、すぐに電源ケーブルを抜き、サービス・サポート窓口にご連絡ください。

キャビネットのお手入れ

柔らかい乾いた布でキャビネットを拭いてください。汚れがひどいときは、水に濡らして固く絞った布に中性洗剤を含ませて拭いた後、再度柔らかい乾いた布で拭いてください。アルコールやシンナー、ベンジン、その他揮発性の溶剤などは使わないでください。変形や変色の原因となります。

故障かな？と思ったら

サービス・サポート窓口にご相談になる前に下記の項目をもう 1 度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときは、サービス・サポート窓口にご相談ください。

本機が起動しない（POWER インジケーターが点灯しない）

・電源スイッチがオンになっているか確認してください。
・電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
・電源ケーブルがコンセントに正しく接続されているか確認してください。

POWER インジケーターが点滅している

本機背面のクーリングファンが正常に動作しているか確認してください。

SAITe1300-S（SCSI インターフェースモデル）をお使いの場合に、ホストコンピューターと通信できない

・ホストコンピューターに電源が入っているか確認してください。
・それぞれの機器に割り当てた SCSI ID が重複していないか確認してください。1 つの SCSI バスに、重複する SCSI ID を設定することはできません。→ 第 2 章の「SCSI ID を設定する（SAITe1300-S をお使いの場合）」（20 ページ）
・本機とホストコンピューターが SCSI ケーブルで正しく接続されているか確認してください。いったん SCSI ケーブルを抜いてから接続し直し、両端のネジをしっかりと締めてください。→ 第 2 章の「SCSI ケーブルを接続する（SAITe1300-S をお使いの場合）」（25 ページ）
・ターミネーターが正しく接続されているか確認してください。→ 第 2 章の「SCSI ケーブルを接続する （SAITe1300-S をお使いの場合）」（25 ページ）
・コネクターのピンが破損していないか確認してください。ターミネーターと SCSI ケーブルを取り外し、各コネクターのピンが曲がったり、抜けたりしていないかなどを確認してください。必要に応じて、新しいケーブルと交換してください。
・SCSI バス上に接続されている SCSI デバイスの台数を確認してください。接続可能な SCSI デバイスの台数は、SCSI ホストアダプターカードを含め 16 台です。
・接続している SCSI 機器がすべて LVD デバイスであるか確認してください。本機は LVD デバイスです。本機に HVD デバイスを接続しないでください。
・SCSI ケーブルの長さを確認してください。LVD バスに接続されているデバイスが本機 1 台の場合は、SCSI ケーブルの全長が 25m 未満になるようにしてください。同一バス上に他の機器も接続している場合は、ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12m 未満になるようにしてください。本機の内部ケーブルの長さは 25cm です。→ 第 2 章の「SCSI ケーブルを接続する （SAITe1300-S をお使いの場合）」（25 ページ）

SAITe1300-F（ファイバチャネルインターフェースモデル）をお使いの場合に、ホストコンピューターと通信できない

- ホストコンピューターに電源が入っているか確認してください。
- 本機背面の FC ステータスインジケーターを確認してください。ステータスインジケーターがオレンジ色に点灯している場合は、接続エラーが発生しています。再度ケーブルの接続を確認し、必要に応じてケーブルを交換してください。
- 本機とホストコンピューターまたはハブ、スイッチが光ファイバーケーブルで正しく接続されているか確認してください。→第 2 章の「光ファイバーケーブルを接続する （SAITe1300-F をお使いの場合)」（27 ページ）
- 本機に対応している光ファイバーケーブルを使用しているか確認してください。→第 2 章の「光ファイバーケーブルを接続する （SAITe1300-F をお使いの場合)」（27 ページ）
- ループ ID が正しく設定されているか確認してください。→第 2 章の「ループ ID を設定する（SAITe1300-F をお使いの場合)」（21 ページ）

アプリケーションソフトウェアで本機が認識されない

- 使用するアプリケーションソフトウェアが本機に対応していることを確認してください。本機で使用できるアプリケーションソフトウェアや対応しているオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。
- ホストコンピューターにアプリケーションソフトウェアが正しくインストールされ、正しく設定されているか確認してください。
- アプリケーションソフトウェアによっては、本機をロードするためにデバイスドライバーが必要な場合があります。お使いのオペレーティングシステムに合わせて、デバイスドライバーをインストールしてください。デバイスドライバーは、本機に付属の CD-ROM に収録されています。→第 2 章の「デバイスドライバーをインストールする」（24 ページ）

メディアエラーが検出された

EJECT ボタンを押してカートリッジを取り出したら、本機をリセットし、新しいカートリッジをセットしてください。

ドライブエラーが検出された

EJECT ボタンを押してカートリッジを取り出したら、本機をリセットし、新しいカートリッジをセットしてください。

主な仕様

性能

記憶容量　500G バイト（非圧縮、600m S-AIT カートリッジ使用時）
1.3 テラバイト
（2.6:1 圧縮[*1]、600m S-AIT カートリッジ使用時）

データ転送レート
30M バイト / 秒（非圧縮時[*2]）
78M バイト / 秒（圧縮時）

バーストデータ転送レート
160M バイト / 秒（最大、同期、SCSI の場合）
200M バイト / 秒（最大、ファイバチャネルの場合）

ビットエラーレート
10^{-17} 以下

イニシャライズ時間
5 秒以下

ロード時間　23 秒以下[*3]

アンロード時間　21 秒以下[*3]

巻き戻し時間　100 秒以下[*3]（600m S-AIT カートリッジ使用時）

サーチ時間　70 秒（平均）

[*1] 圧縮率は、データタイプにより変化します。
[*2] 転送レートは、お使いのホストコンピューターの性能により異なります。
[*3] リトライに要する時間は含まれていません。

使用環境

使用時　温度：5 ～ 35 ℃
湿度：20 ～ 80%（結露のないこと）
（最大湿球温度：26 ℃）

非動作時　温度：-40 ～ 70 ℃
湿度：10 ～ 90%（結露のないこと）

温度勾配　使用時：10 ℃ / 時
非使用時：20 ℃ / 時

湿度勾配　非使用時：30%/ 時

使用高度	0 ～ 3,048m
ESD	放電：15kV（誤動作がないこと） 電圧：20kV（装置の破損がないこと）
振動	使用時 :Swept Sine 5 ～ 500Hz 0.25G Peak 1 オクターブ / 分 非使用時： Swept Sine 5 ～ 500Hz 0.5G Peak 1 オクターブ / 分
衝撃	使用時：Half Sine 5G Peak 3 ms（データの破損がないこと） 非使用時：Half Sine 90G Peak 2 ms（装置の破損がないこと）

電源・その他

電源	AC100-240V ± 10%（50/60Hz） 0.7A（100V） 0.4A（240V）
動作音	書き込み / 読み込み時：50dB（A）
外形寸法	210（W）× 86（H）× 370（D）mm（突起部を含まず）
質量	7.0kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なしで変更することがありますが、ご了承ください。

オプショナルアクセサリ（別売）

S-AIT カートリッジ
（非圧縮時 500G バイト / 圧縮時 1.3 テラバイト、600m テープ）
型番 SAIT1-500

S-AIT クリーニングカートリッジ
型番 SAIT1-CL

エアーフィルターキット
型番 ACY-FLSE
交換用のエアーフィルターです。本機に付属のエアーフィルターと同じものです。

ラックマウントキット
型番 ACY-RKSE
ラックマウントキットを使うと、EIA STANDARD の 19 インチラックに設置できます。

オプショナルアクセサリについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

索引

あ

アプリケーションソフトウェア 9

い

インジケーター 12

え

エアーフィルターの交換 41

お

オプショナルアクセサリ 47

か

カートリッジ
- 各部の名称 35
- 準備 31
- 使用できるカートリッジ 9
- セット 31
- テープの書き込み保護 37
- 取り扱い 38
- 排出 32
- 保管 39

開梱する 16
各部の名称 10
- 前面 10
- 底面 15
- 背面 13

く

クリーニング 40
クリーニングカートリッジ 38

し

仕様 46
使用環境 46

せ

接続
- SAITe1300-F の場合 27
- SAITe1300-S の場合 25

設置 23

て

ディップスイッチ 18
データ圧縮の設定 19
データカートリッジ 34
デバイスドライバー 24
電源を入れる 29
電源を切る 31

と

同梱品 17
トラブルシューティング 44

は

ハードウェアリセット 42

ふ

ファームウェアアップデート 42

ほ

ホストコンピューター 17
- 準備 17
- 接続（SAITe1300-F の場合）. 27
- 接続（SAITe1300-S の場合）. 25

る

ループ ID 21

A

AL_PA とループ ID の一覧 22

S

SCSI ID 20

お問い合わせは
お買い上げの販売店までお願いいたします。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35
Sony Corporation